

寶林精舎

《題字・森神紫陽》

一位牌堂清掃奉仕 位牌が綺麗になりました

10月19日に女性部による位牌の清掃奉仕がありました。位牌堂には檀信徒の位牌386柱が安置されています。11名の女性部のみなさんが位牌を一柱ずつ棚から下ろして丁寧にハタキでホコリを払いました。4時間後には各家の位牌は見違えるほど綺麗になって再び安置されました。お陰で先祖さまも新たな気持ちで新年を迎える事ができます。佐伯市で一番会員数の多い正定寺花園会女性部は「報恩謝徳」の仏心でお世話をしています。私達のご先祖さまが代々おまつりされている菩提寺の女性部に参加しませんか。〈新会員募集〉

第53号

平成22年冬発行

一部単価135円(非売品)

正定寺花園会広報

檀信徒数

直川地区：260戸

直川地区外：143戸

発行所

〒879-3104

大分県佐伯市直川大字

仁田原 寶林山正定寺内

TEL0972 (58) 2190

FAX0972 (58) 2192

隠察 0972 (58) 2195

URL <http://syoji.com/>

e-mail shoji@saiki.tv

住職 小原 寿山

第2回 ご奉仕のみなさん



位牌堂

大正14年（1925）四間四方回廊の「位牌堂」が本堂の裏に再建されました。

当時は統一された位牌ではなく、篤志の檀家に限ってお位牌を預かり、「日牌・月牌」として、祠堂諷経がなされていた。

僧侶がお唱えする祠堂諷経へのお札（浄財）は「日牌諷経料・月牌諷経料」とよばれていました。江戸時代の宝暦11年（1761）に記された「宝林祠堂日牌月牌記」には供養する施主名と共に「月牌経米一石・月牌経米一斗」などと浄財がお米で納められていたことが判ります。

現在この「日牌諷経料・月牌諷経料」は「護持金」と云う名称で呼ばれています。護持金は位牌が安置されている正定寺檀信徒の

諷経料の事なのです。

今は正定寺花園会の下で檀家護持諷経として法灯の浄財となつていいます。

昭和48年（1973）の新位牌堂建立にあたり大師堂の跡地（現在地）へ本堂裏から位牌堂が移転され、「観音堂・大師堂・位牌堂・鎮守堂」の合祠堂として建てられました。

現在の室中は正面本尊に「観音菩薩」を安置して、東に「弘法大師」、西に「弁財天」を配して、全ての檀信徒が同一位牌を念願として安牌されています。

現在、三八六基が安置され過去帳記入のため家に持ち帰っている位牌が三十四基、これから過去帳にご先祖を記載する位牌が九十七基ほどあります。

二八九基には各家過去

帳が納められていて、ご先祖さまの戒名や亡き方への報恩の情が施主自らの手によつてしるされています。

その大切な位牌を女性部が「息や手跡」などが付かないようにマスクに手袋姿で丁寧にハタキをかけて清掃を致しました。

※長い年月の間には絶家（絶えた家）もあります。でも絶家の檀家位牌は大切に保管されて秋の彼岸に供養され過去帳の戒名もそのまま永代残ります。

その他に、遠地に移住して寺院を替えたり宗旨替えなどの檀家（離檀）の場合は離檀家に位牌をお渡しするか当方でお焚き上げ致します。

離檀の場合は次の住職へ引き継ぐ都合や各寺院に同一の記録が残ることを避けるために元過去帳の戒名にその旨を記しています。



一柱ずつハタキをかける



マスクに白手袋





みなさんお疲れさまでした

第1回 晋山式世話人総会

（臨時世話人総会）

平成22年11月3日（水）午後7時より地区世話人・総代及び花園会役員の出席のもと「臨時世話人総会」が開かれました。

この総会は6月20日に行われた「定例世話人総会」の平成22年度事業計画にそって開催されました。

総会では地区世話人・花園会役員全31名の出席のもと「晋山式収支予算」・「各地区の現状」・「檀信徒負担金の納付」・「今後の予定」などが話し合われました。

晋山式は次の住持を定め迎える儀式です。随喜施と云われるように多くの檀信徒と共にその日を喜びあいたいと思っております。檀信徒の皆さまには出費ご多端の時期に恐縮ですが何卒ご厚情とご

援信をよろしくお願い申し上げます。

◆檀信徒の皆さまへ

一、晋山式の総費用は三千四百十五万円となり、募財は一檀家あたり七万三千円のご寄進をお願いする事となりました。

一、平成23年の1月末から2月にかけて全檀信徒さまへ「晋山式の趣意書」を配布致します。

一、晋山式は古式にのっとり平成二十四年十一月に挙行の予定を致しております。

一、村外扱いの檀信徒（約140名）の方々

は平成23年4月から平成24年4月までの期間でご負担をお願いすることになります。

一、村外扱いの檀信徒の方々への「納付方法」などは趣意書に同封致します。

一、直川の横川地区・川又向船場地区・羽木蜷地区・中津留間庭地区・間地区の檀信徒さまは村外扱いとさせていただきます。

一、各家族に和尚さん若しくは役員さんがご説明に上がります。

一、説明日はおつて各家別に連絡を致します。

一、負担金七万三千円を一括全納される檀信徒さまは、世話人さまを通じて振込用紙で納金する方法をお願い致します。

※一括全納者は特別会計が正定寺へお知らせください。

一、村内檀信徒の集金時

総会の様子



での領収書は地区世話人さまの受領印となりますが完納時点では特別会計から地区世話人さんを通じて正式な領収書が発行されます。

一、晋山式負担金の振り込み用紙と護持金の振込用紙は「加入者

名」・「口座番号」が違いますので間違えないようにお願い致します。

一、特別寄付金については和尚さん・総代さんが篤志者へお願いに上がります。



仁田原・赤木の世話人さん



直見地区世話人さん



赤木・直見地区世話人さん



総代説明



プロジェクターで説明



役員

第二十四世南陽拓朗和尚晋山式にあたり

戸 高直 人

この度、第二十四世南陽拓朗和尚晋山式における会計を拜命賜りました内水地区の戸高直人と申します。

私は、恥ずかしながら昭和57年に挙行された第二十三世新命和尚（現ご住職様）晋山式のことを全く記憶しておりませんし、どのような内容の行事なのかですらわからない状況でした。

ゆえに、「今回の晋山式会計を」というお話をいただいた時には、正直お断りさせていたどころと考えておりました。

1523年に創建され

た長い歴史と由緒のある正定寺という寺院に第二十四世南陽拓朗和尚様のお迎えする30年に一度の大切な一大行事における会計という大役に、若輩者であり、造詣も深くない私には、荷が重すぎるのではないか。また、この由緒ある正定寺とそれを献身的にお支えになられているすべての檀信徒の皆様に対して、失礼に当たりはしないか、とも感じておりました。

しかし、正定寺の30年に一度の大切な儀式に、檀信徒の一人として深く携わらせていただけるこ

とのありがたさと、私のような者にこのお話をしていたただいたご住職様、総代の皆様に対する感謝の意を表すことの大切さを強く感じ、この大役を、ありがたくお受けすることになりました。

この大役をお受けするにあたり、私個人として、今回の晋山式に携わるすべての事、そして無事に円成させる事、そしてそれを願う事は、私のご先祖様、父そして母に対する供養でもあると考えております。

不謹慎な言い方なのかもしれませんが、お位牌

や墓前の前で手を合わせ、線香をお供えすることと同じことでもあると感じております。

先にも述べましたとおり、若輩者で造詣も深くない私ではありますが、平成24年11月に挙行される第二十四世南陽拓朗和尚晋山式の円成のため、精一杯務めてまいりますので、檀信徒の皆様のご援信とご教示を何卒賜りますようお願い申し上げます。



平成22年度 秋季特別布教……本匠の瑞祥寺にて

平成22年11月16日（火）午前10時より本匠因尾の瑞祥寺で「平成22年度秋季特別布教」が行われました。

講師に愛媛県の光教寺住職小田実全和尚さまを迎え、第2部（佐伯市内21ヶ寺）の檀信徒約80名が参加しました。

演題は「調える（ととのえる）」～一日一度は静かに坐って身と呼吸と心を調えましょう～と題して1時間30分の法話がありました。

正定寺からは花園会女性部の甲斐久仁子さん・柳井久美子さん・甲斐俊子さんと寺庭が参加しました。新築された本堂で本山ご開山さんとご開基さんへ諷経して、参加者で坐禅・生活信条唱和など有意義な日を過ごしました。



参加した甲斐久仁子さん・柳井久美子さん・甲斐俊子さんと寺庭



講師の光教寺住職：小田実全和尚さま



新築の瑞祥寺本堂

◎世話人任期満了について

地区世話人さまの中で今年度に任期（一期3年）を迎える方は、平成23年3月31日までお世話を頂き、新世話人さまは同年4月1日よりお願い致します。

平成23年度の「定例世話人総会」は6月に行いますので、世話人交代の地区は新世話人さまの名簿を3月までに正定寺へお知らせください。（※地区檀徒数によって任期が違う地区があります）

また、世話人さまの選出において、現在「総代・花園会役員」でお世話を頂いています檀徒は除外してご選出ください。

◎護持金入金について

平成20年10月より、地区世話人さまによってお世話を頂く護持金が郵便局ATMでの利用となりました。なるべく窓口ではなくATM機械でのお振り込みをお願い致します。

ATM機械の操作が判らない場合は窓口のゆうちょ職員にお尋ねください。

尚、直川外（村外扱いなど）の皆さまは例年通りの郵便振り込み（一括）です。

花園会女性部ボランティア活動

平成22年9月22日の「秋彼岸山門施餓鬼法要」が終わったあと、女性部役員が直川苑にタオルを

お届け致しました。直川苑の入苑者に「家庭の味」を届けたいと18年前から「梅干し」を贈



直川苑にて

ってきましが、3年前から「直川苑」が独自で梅干しを漬けるようになったので、その後は「タオル」を女性部が持ち寄り届けるようになりました。今回も女性部役員「甲斐部長・川野副部長・柳井会計事務局」の3名が直川苑に出向きました。直川苑では城井勉施設長さんや入苑者のおばあさんにわざわざ出迎えて頂きました。



秋彼岸山門施餓鬼法要

9月22日（水）午前11時の正定寺大鐘を合図に近隣の和尚さん10名が本堂へ入堂します。本堂は五色の幡が秋風に揺らぎ、施餓鬼法要の声明が本堂に響きました。

秋彼岸にご先祖のご供養を申し込まれた方は321名でその供養霊数は630霊にのぼり法要の一週間ほど前から「水塔婆」や「御幣」を女性部が準備いたしました。

年中行事としては大勢の檀信徒が参加する盛大なものです。

百名を超える参拝者は読み上げられる630霊の戒名を静かに聞きながら1時間の法要に手を合わせていました。



各和尚さま方



参拝者



山門施餓鬼を告げる大鐘



焼香と水向け



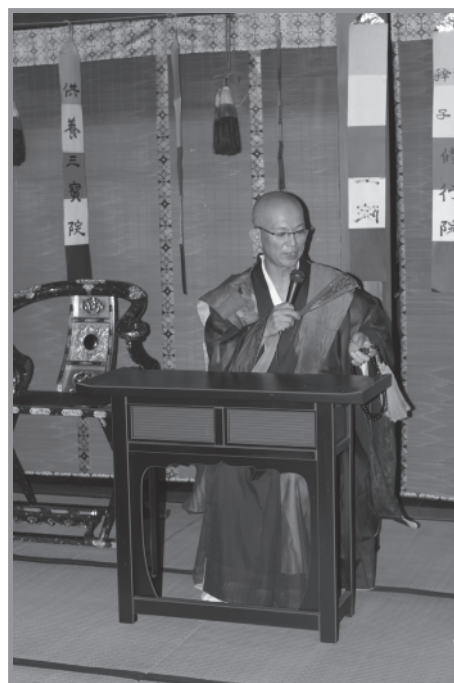
戒名を読み上げる梅南寺和尚さん



焼香と水向け



焼香と水向け



法話をする長徳寺和尚さん



山門施餓鬼を準備する女性部

秋のお彼岸に頂戴する 水卒塔婆（経木塔婆）の供養の仕方

戒名かいみょうが書かれた水塔婆みずとうばは、名の由来のごとく本来は川に流し（水供養みずくよう）したものです。これを「彼岸ひがんの経木流しきょうぎ」と云います。

薄い水塔婆みずとうばは、年忌法事で使われる卒塔婆そとばとはちがい、別名「経木塔婆きょうぎ」と言われ平安時代は教典（お経）を書いていた。

この「水塔婆みずとうば（経木塔婆）」を供養する法要を「施餓鬼法要せがき」・「甘露法要かんろ」・「闍伽法要あか」・「水陸法要すいりく」などと呼びます。

水塔婆みずとうばには亡き人の戒名かいみょうを記して一霊一霊丁寧にくようご供養が行われます。小幣こへい（五色の幡）はご先祖を救ってくださる二十五菩薩ぼさつをあらわして型取ったものです。

河川に物を流すのが規制されている現在では、水塔婆みずとうばと小幣こへいは共に墓前にお供えするようになりました。

墓前にお供えしてお参りするたびに水塔婆みずとうばに水を掛けて供養くようします。

水の事を中国では「闍伽あか」と呼び「供養くよう」を意味する言葉です。

お墓に水をかける風習は中国から伝わった「闍伽供養あか」の由来が起源で、お墓の正面には「あか受け水鉢」と云うくぼみがある墓もあります。

又、お墓参りに撒くものを「水の華はな（小豆・米・野菜を混ぜた供物）」と言い、お墓には「水」の字がつく言葉が沢山あります。

この水塔婆や小幣は年末に塩を掛け墓所内で燃やし灰は回りに撒きます。卒塔婆はインドの言葉で「スツバ」と言い、お釈迦様しゃかの舍利しゃり（お骨）を納め供養くようした高い塔の事を言います。



みなさんお疲れさまでした

寺山の 立木調査

平成22年11月23日午前9時より総代・役員7人で正定寺所有の山林調査を行いました。5800㎡におよぶ広さの山で杉の立木を輪尺で一本一本測っていきます。
この山の立木調査は8月に一度行われ、今回で2回目になります。
前回に付けられた調査済みの印や境界を確認しながら行われました。



輪尺で測る総代役員

《正定寺花園会役員名簿》

- 花園会役員（檀徒総代） 甲斐 照光
- 花園会役員（檀徒総代） 小野 永生
- 花園会役員（檀徒総代） 御手洗晴視
- 花園会役員（檀徒総代） 安藤 廣美
- 花園会役員（檀徒総代） 村西 栄二
- 花園会役員（檀徒総代） 甲斐久仁子
- 花園会役員（檀徒総代） 安藤リヨ子
- 花園会役員（檀徒総代） 川野久美子
- 花園会役員（檀徒総代） 柳井久美子
- 花園会役員（檀徒総代） 小田木聖孝
- 花園会役員（檀徒総代） 安藤 博光
- 花園会役員（檀徒総代） 戸高 直人
- 花園会女性部部長 花園会女性部副部長 川野 貴重
- 花園会女性部副部長 立箱 和人
- 花園会女性部副部長 安藤 慶喜
- 花園会女性部副部長 柳井久美子
- 花園会女性部副部長 小田木聖孝
- 花園会女性部副部長 安藤 博光
- 花園会女性部副部長 戸高 直人
- 花園会青壮年副部長 晋山式特別会計

《正定寺花園会地区世話人名簿》

- 内水地区 戸高 浅生 堂師地区 羽明 忠義
- 椀杖・下城地区 飛田 照子 野の内地区 川野 貴重
- 岸の上地区 羽明 忠夫 立箱・長野地区 立箱 和人
- 上の地区 植田 純市 中津・道内地区 安藤 慶喜
- 細川内地区 小野 浩伸 吹原地区 山内 一平
- 久留新中地区 簗戸 功吉 柚の原地区 染矢 博正
- 黒岩地区 小野 力 竹の下・園地区 竹中 裕子
- 大鶴・菅垣地区 三浦 伸一 問庭・中津留地区 簗戸 精一
- 神の原地区 尾形 利勝 江河内・道越地区 甲斐 龍太
- 神栗地区 森下 修 尾浦地区 山本 春男
- 市屋敷地区 柳井 百人 旧佐伯地区 仲宮 哲男
- 花園会会計監査委員 竹中 裕子
- 花園会会計監査委員 植田 純市
- 花園会女性部会計監査委員 小野 宣子
- 花園会女性部会計監査委員 柳井 政子

※花園会地区世話人はその年度末（3月31日）までお世話を頂きます。

僕の知らない祖父がいました

森田 邦之

とても大きな声が、私を呼びます。

ひとつひとつの言葉

は、とても丁寧で熟考しながらゆっくり喋ります。

まるで、校長先生の朝の集会。

私の祖父である吉雄は、校長先生だったようです。

過去形なのは、私が1回も校長先生だった姿を見たことがないからです。

私にとってはごく普通のどこにでもいるありふれたおじいちゃんだと思っ

ていました。祖父はいろいろな経験をさせてくれたと思いません。

新幹線の切符の買い

方、釣りの仕方、散歩の仕方、ハエたたきの使い方……

あるとき、僕は祖父に言いました。

「沖繩の日差しはとても暑いけど、フライパンを外においておいたら目玉焼きが出来ると思う。」

祖父は僕の馬鹿げた問いかけをまじめに聞いてちよつと微笑み、

「実際にやってみなさい」と言ってくれました。結果は内緒です。

祖父と弟と僕の3人で、仲良く釣りに行きました。

家の堆肥置き場でミミズを捕まえ、綺麗な澄んだ海のすぐそばにある小さな水溜りでした。

沖繩にもうなぎがいた

のは驚きです。祖父もとてもびっくりしてました。

祖父は散歩が好きでした。とにかく地図を買って歩き回ります。

どこかに旅行に行くとき、次の朝の早朝は必ず散歩に行っていました。

富士山に家族で行ったこともありました。家族5人と祖父の計6人だったと思います。

1人また1人と家族が脱落し、8合目を過ぎるところには、私と祖父の2人だけになっていました。

9・5合目でさすがの祖父もギブアップ。おまけに持ってきた1・5リットルのコーラのペットボトルのふたが自然に緩

み、祖父のリュックの中をずぶずぶに濡らしてしまいました。

「私はここで待っているから、頂上を見てきなさい」と言われ、頂上までは私一人で行きました。

おいてきた祖父が心配だったので走って行って20秒ほど火口を眺め、急いで降りてきたのを覚えて

います。沖繩疎開の話は、僕には一切しなかつたのでよくわかりません。

親戚のおじさん、おばさんや、両親からの情報がすべてでした。

そんなとき、インターネット上で祖父の名前で検索をかけ、正定寺

を知りました。僕の知らない祖父がいました。

知らない写真がありました。

僕の知らない祖父がそこにいました。

私と祖父の思いでは、語りつくせぬほどたくさんありますが、正定寺さんのインターネット上の情報で、私の中で一段上の説得力と納得を感じさせてもらえました。

このような機会を与えてくださった正定寺住職様に感謝いたします。ありがとうございます。



正定寺にて森田邦之さんのご両親と弟さん